

レトロ・レトロの展覧会

平成19年度発掘調査出土品展

2008



主催財団法人滋賀県文化財保護協会
共催滋賀県教育委員会

ごあいさつ

琵琶湖と周辺の山々や大小の河川と平野などによって形成された美しく豊かな自然環境をもつ滋賀県は、日本のまんなかとでもいうべき地理的環境によって、独特の歴史・文化を育んできました。

私たちは、埋蔵文化財の調査・研究、さらに、滋賀県立安土城考古博物館・滋賀県立琵琶湖文化館・滋賀県埋蔵文化財センターの管理・運営などを通じて、滋賀県がもつ豊かな文化財の保護と活用に日々努めています。

毎年、夏に行っている「レトロ・レトロの展覧会」は、皆さんに埋蔵文化財を広く知っていただくための取り組みのひとつで、今年で22回目になります。

昨年度は県内で約40件の試掘調査と発掘調査を行い、西浅井町塩津港遺跡の神社跡から100点をこえる「起請文木簡」が出土し、湖南市夏見城遺跡では戦国武将の「毛抜き」が見つかるなど、多くの発見がありました。この展覧会では、発掘調査で得られた成果を少しでも早く知っていただき、そして、出土した遺物にふれてもらうことや火おこしを体験してもらうことで昔の人たちの生活に関心をもっていただければと思っております。

この展示が、文化財への理解を深めていただき、また、歴史への興味をもっていただくきっかけとなって、地域や滋賀県の未来を豊かにする一助になることを願っています。

平成20年 7 月

財団法人滋賀県文化財保護協会



こんにちは！
滋賀県の歴史を
ご覧ください。

シガタロウ君デース!!

今回登場する遺跡の位置



県内各地で
発掘調査を
しました。



P24 平成19年度財団法人滋賀県文化
財保護協会事業概要報告

本書で使った地図は、国土地理院発行の数値地図25000（地図画像）を複製したものです。



ホームページに現地説明会資料あります。
<http://www.shiga-bunkazai.jp/>

かみ おおぎ 上仰木遺跡 大津市仰木4丁目

延暦寺造営を支えた生産工房



上仰木遺跡は^{ひえいざんえんりやくじ}比叡山延暦寺の東側の山麓に位置しています。

これまでの調査で9世紀後半の^{せいてつろ もくたん}製鉄炉と木炭^{がま}窯、10～11世紀の銅の^{ちゅうぞう}鑄造関係遺物が見つっています。

上仰木遺跡での製鉄は、延暦寺で大規模な堂舎の造営が始まったところに操業されていたことがわかっています。寺院には建物の造営に使う^{てつくぎ}大量の鉄釘や、仏具（銅製品）などが必要になりますが、上仰木遺跡は、延暦寺の大規模な造営を支えるための生産工房の一つであったと考えられます。

今回の調査では、製鉄の過程で出た鉄滓を捨てた^{てつさい}廃滓場^{はいさいば}、木炭を製造した窯などが見つかりました。



廃滓場掘削状況

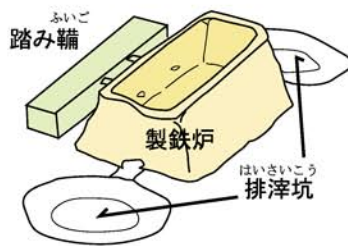


廃滓場完掘状況

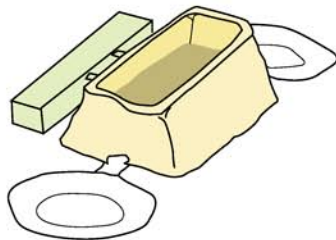
広さは15×20m、もっとも深いところでは2mの深さがありました。

古代の鉄作り

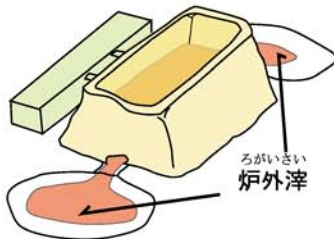
- ① 炉と踏み鞆を用意します。
炉の両側には穴を掘っておきます。



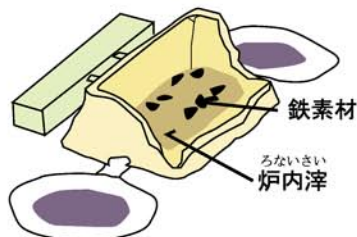
- ② 炉の中に鉄鉱石と木炭を入れます。



- ③ 踏み鞆で強制送風し、温度を上げます。
不純物を炉の外へ出します。



- ④ 炉を壊して、炉の底でできあがった鉄素材を取り出します。



古代の鉄作りは、①炉と踏み鞆^{ふいご}を用意します。
②炉の中で鉄鉱石^{てつこうせき}と木炭とを一緒に燃やして鉄を取り出していました。③鞆を使って高温で木炭を燃やし、鉄鉱石から溶け出た不純物を炉に開けた穴から外に出します。④出来上がった鉄は炉の壁を壊して取り出し、細かく砕いた後で*精錬^{せいれん}の工程にまわされました。炉壁は製造の過程で溶けてしまうので、鉄滓と一緒に捨てられました。

鉄鉱石から鉄を取り出す過程で生まれた不純物や、壊した炉の壁が捨てられた場所が、今回見つかった廃滓場です。廃滓場は15×20m以上の広さで、深いところでは2mの深さまで鉄滓や炉壁などが層になっていました。すべて集めると100t以上になります。

*『精錬』
不純物を取り除いてより純度の高い金属にすること



出土した木炭窯（1号窯）幅：約1.3m 長さ：約7.0m

今回見つかった4基の木炭窯のうち、形が残っていた3基は全て、地下式の窯でした。そのうちの1基は煙道^{えんどう}まで残っていました。これらの窯は斜面をくりぬいて造られています。

付近の調査から、製鉄・銅の鑄造が行われていたことがわかっています。炭を遠くから運ぶのは非常に大変なので、この窯はそれらの金属原料を溶かす時に使う木炭を製造した窯のひとつと考えられます。



ホームページに現地説明会資料あります。
http://www.ehiga-bunkazai.jp/

みょうおういん・じしゅじんじゃ

明王院・地主神社遺跡

大津市葛川坊村町

建物の下から平安時代の基壇を発見



JR湖西線「堅田」駅下車後
江若バス「坊村」下車徒歩5分

明王院・地主神社遺跡は、平安時代に建立された天台宗の寺院である葛川^{かつらがわ}息障明王院と、その鎮守である地主神社を中心に広がる遺跡です。

明王院は建物を含めた境内全体が山岳修験の回峰行の行場としての景観を良く今日につたえており、本堂・護摩堂・庵室・政所表門の主要な建物4棟

(江戸時代前期～後期)を含む境内全体が重要文化財に指定されています。

明王院の本堂ほか3棟の建物について、4年間にわたって解体および部分解体修理が行われるのに伴い、そのうちの本堂と庵室について、発掘調査を行いました。

まず、滋賀県教育委員会による建物解体および部分解体修理を行い、その後、発掘調査を行いました。

文保元年(1317)に描かれた『葛川^{かつらがわ}といかだちのしょうそうるんえず^{ぶんぽう}』には、現在と同じ位置に本堂と庵室が見えます。庵室は、今よりも蛇行した川沿いに、隣の護摩堂よりもやや内側(北側)に位置するように描かれています。



現在の明王院境内



『葛川与伊香立庄相論絵図』部分(重要文化財)

(大津市歴史博物館図録より転載)

14世紀の明王院の様子が描かれています。



本堂床下の発掘調査

本堂は建物を残したまま、床下に入って調査を行いました。

本堂床下の調査

解体修理の際に、以前の建物に使われていた部材が今の本堂にも使われていることが確認されました。以前の建物は、平安時代後期のものとみられ、現在の建物よりも小さかったことがわかりました。

発掘調査では現在の^{きだん}基壇の内側に、もう一つの基壇の痕跡を確認しました。出土遺物から見て、11世紀後半ごろにはこの古い基壇が存在していたことがわかりました。

庵室の調査

現在の庵室は^{てんぼう}天保5年（1834）に建立され、さらに残されていた^{むなふだ}**棟札から、前回、庵室が建て替えられたのは^{けい}慶長^{ちょう}10年（1605）であることがわかっていました。

発掘調査でも、現在の基壇の石垣は17世紀初頭に築かれたものであるということがわかりました。

そして、さらにその内側から、11世紀後半～16世紀前半ごろまで使われていたと見られる古い基壇が見つかり、このときの改築で基壇を川側に拡張し、庵室を建て替えたことがわかりました。



出土した庵室前身基壇の石垣（16世紀）

庵室は建物を全て解体した後に、全面的に発掘調査を行いました。

*『基壇』寺院などの大型建物の重量を支えるために築かれた土台
 **『棟札』建物の由緒・工事年月日・施主・工程などを記して棟木に打ち付ける板

さなみでら 酒波寺遺跡 高島市今津町酒波

寺の中の鑄造施設



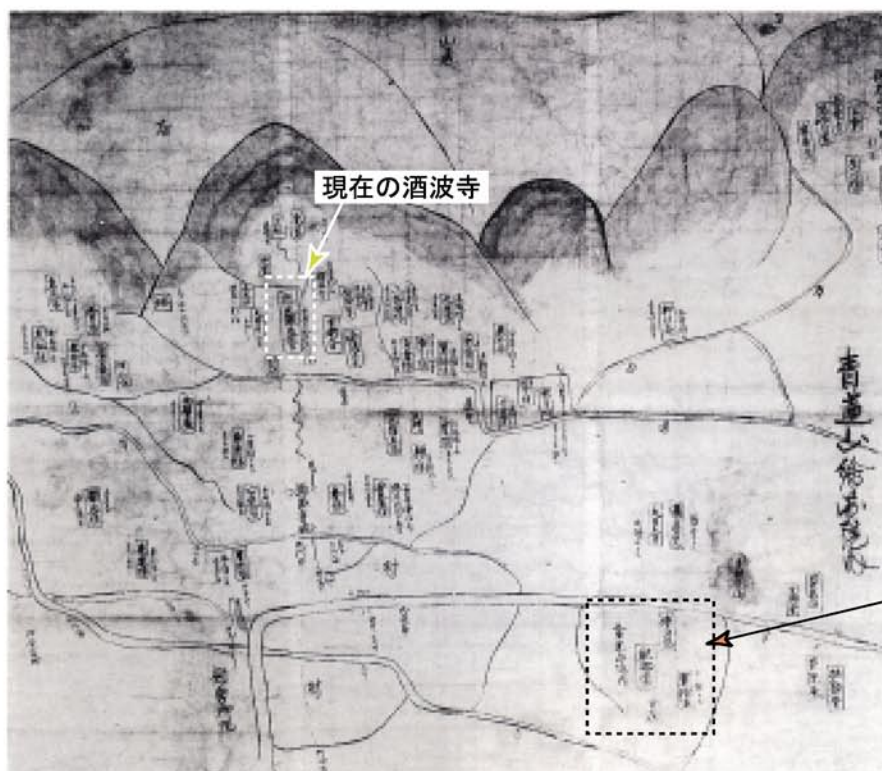
酒波寺は、天平13年（741）に聖武天皇の御願によって、行基の作という千手観音像を本尊として開かれたと伝えられています。最盛期には50を超える寺坊を抱える非常に大きな寺でしたが、言い伝えでは、元龜3年（1572）に織田信長のおい、信澄の焼討ちにあって焼失してしまいました。その後、本堂は再建されましたが、寺坊は再興されることはありませんでした。

酒波寺に伝来する『青蓮山院内絵図』には焼討ちにあう前の50を超える坊跡が描かれています。

今回調査を行ったのは、絵図の右下に「傳法院」「釈迦堂」と記されている部分にあたると考えられます。



遺跡全景



青蓮山院内絵図 酒波寺に伝わる絵図で、天正15年（1587）に描かれたといわれています。織田信澄の焼討ちにあって焼失する前の姿と考えられています。



水溜遺構

2.2×1.4mの角丸長方形、深さ0.6m
壁面の石の裏と底に粘土を貼り、水を溜めます。



剃刀出土状況

鉄製の剃刀。刃先が平たいので剃刀とわかります。

調査の結果、12世紀後半から15世紀前半にかけての土坑（穴）・水溜遺構・掘立柱建物・柱穴や古墳など、多くの遺構が見つかりました。

その中でも、坊の建物と思われる掘立柱建物の近くからは水溜遺構や、火を使用した痕跡のある土坑が見つかりました。また、その付近でたくさん見つかった不要物を捨てた土坑の中からは、埴塙・銅滓・砥石・鉄製品・石製品などが見つかったことから、この敷地の中では鉄や銅を使った鋳造が行われていたことがわかります。

また、掘立柱建物跡の近くからは瀬戸焼の仏具や中国製の青磁・白磁、国産の瀬戸焼・常滑焼・信楽焼などの陶器・土師器のほか、鉄製の剃刀も出土しました。

絵図と現在の地形を比べますと、今回の調査地は坊の跡であることは間違いありません。寺の境内では鋳造など、物の生産も行っていたことがわかりました。



古墳石室

現存していたのは横穴式石室の基底部分のみ。
玄室の大きさは3.8×1.3m、羨道の幅は1m。



耳環出土状況

古墳からは銅製の耳環が出土しました。

今回検出した古墳は、隣接する酒波東古墳群に属する1基と思われます。

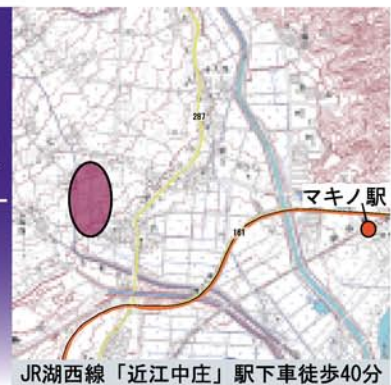
石室からは6世紀末の須恵器・銅製耳環・鉄製刀子などの副葬品が出土しました。



ホームページに現地説明会資料あります。
<http://www.shiga-bunkazai.jp/>

ごくらくじ 極楽寺遺跡 高島市マキノ町沢

公的施設に伴う倉庫群の発見



JR湖西線「近江中庄」駅下車徒歩40分

極楽寺遺跡は、^{しょうらいがわ}生来川と^{ちないがわ}知内川の支流である^{ほりきりがわ}堀切川の扇状地上に位置する遺跡で、これまでの調査で弥生時代後期から中世にかけての遺構や遺物が見つっています。

今回の調査では、5世紀末から6世紀後半ごろにつくられた2基の古墳と、奈良時代後半から平安時代初めごろにかけて建てられた8棟の総柱の掘立柱建物などが見つかりました。この総柱の掘立柱建物は、倉庫であると思われます。

倉庫は、建物が南北一直線に規則正しく並んでいることや、大型の柱穴で建築されていることから、一般の集落での倉庫ではなく、公的な施設に伴うものと考えられます。



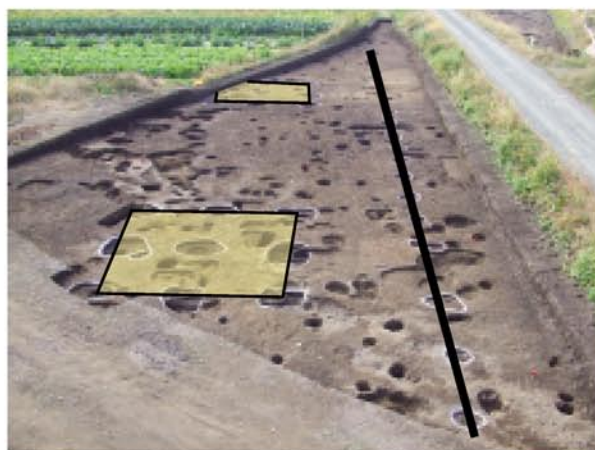
倉庫（掘立柱建物）と柵跡

中央の道を挟んだ両側に倉庫跡とそれらを区画する柵がきれいに並んでいるのがよくわかります。
（上が南側です）

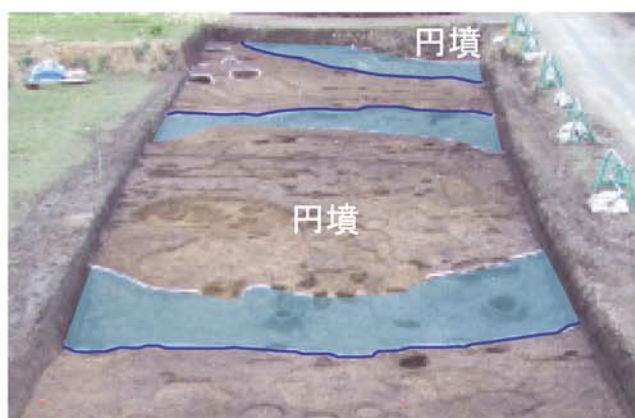
倉庫群の柱穴から出土した土器は8世紀後半から9世紀前半のものと判断できることから、今回出土した柵を伴う倉庫群はこのころのものと思われます。

この場所は、古代の高島郡大処郷に比定されています。郷とは、郡の下の行政単位で、郷倉はその郷単位で設置された公的な倉庫のことです。

では、この時期の公的な倉庫群とは何なののでしょうか。そこで注目されるのが延暦14年(795)に出された『太政官符』に見える、郷倉の設置に関する記述です。ちょうどこの時期が、建物群が営まれはじめた時期になることから、これらの建物は郷倉である可能性が高く、極楽寺の近くに古代の北陸道が通過していたと推定されていることから、物資の運搬に便利な場所に造られた、公的な建物群であるといえます。



一直線に並んだ柵と柱穴



円墳の周濠

周濠：幅約3m、深さ0.2～0.6m



須恵器出土状況

見つかった古墳は、墳丘は削り取られていましたが、周濠の形や大きさから、直径15～20mの円墳であることがわかりました。

周濠からは6世紀後半の須恵器杯蓋や、5世紀末から6世紀初めごろの須恵器の有蓋短脚高杯が出土し、古墳が造られた当時のものと考えられます。

また、周囲の掘立柱建物の柱穴からも6世紀後半の須恵器が出土しており、周辺にはさらに古墳が存在していた可能性があります。

なつみじょう 夏見城遺跡

湖 南 市 夏 見

夏見氏の生活の一端が明らかに

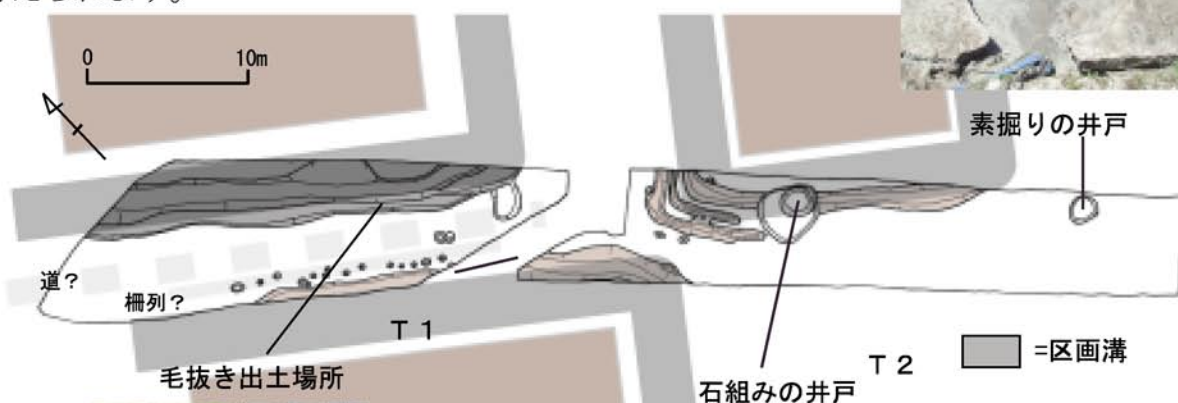


JR草津線「甲西」駅下車徒歩15分

夏見城遺跡は、^{こうかぐんし}甲賀郡志によれば甲賀53家の1つ、夏見氏の居城といわれる城館遺跡です。現在も竹藪の内には幅3～4mの土塁の一部が残っています。

今回、戦国武将の化粧道具の一つ、「毛抜き」が出土しました。見つかった遺構は、夏見城本体の周辺に広がる屋敷跡に関連するもので、東西方向に並んだ3つの区画（郭）^{くるわ}を囲っていた溝（堀）から出土しました。小さな郭がいくつか集まって城を形成している形を「複郭式」^{ふくかくしき}といいます。甲賀郡には50～200m四方の敷地1つを溝（堀）で囲う「単郭式」^{たんかくしき}の城館が多く、その中で夏見城は数少ない城館の形をしています。

この城館の年代は15世紀後半～16世紀ごろを中心とすると考えられます。

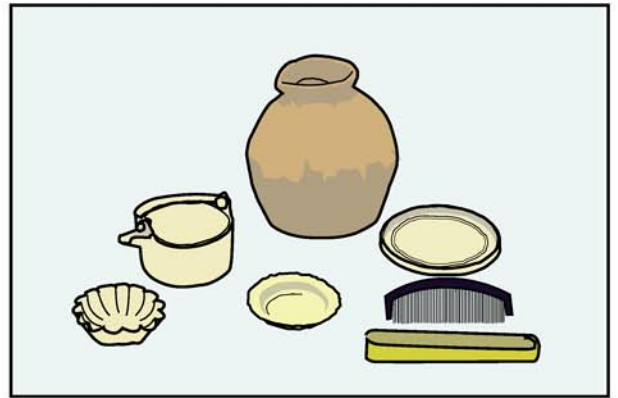


当時、毛抜きは、男女を問わず眉を整えるための必需品でした。手箱^{てばこ}と呼ばれる化粧道具箱の中に鏡や櫛^{くし}・櫛^{はさみ}・鉢^{おしろい}・白粉箱^{はぐろ}・羽黒箱^{べにざら}・紅皿などの化粧道具と一緒に保管されていました。



毛抜き

(長さ：8cm 幅：0.7～1.5cm 重さ：15.6g)



化粧道具のイメージ

毛抜きの素材である真鍮^{しんちゅう}（銅と亜鉛の合金）は、これまで江戸時代初期（17世紀初頭）に中国大陸からその製造方法が伝えられたといわれていましたが、今回の発見で、室町時代末（16世紀）には生産されていることが明らかになりました。



鶴の面



沢瀉の面



沢瀉

夏見城遺跡から出土した毛抜きには、精巧な文様が彫りこまれています。描かれているモチーフは翼を広げた鶴^{おもだか}と沢瀉^{きつしやうもん}です。どちらも縁起のよい文様（吉祥文）で、とても丁寧な鑄金技術で仕上げられています。沢瀉は葉の下半分が分かれる特徴的な形をしています。この葉の形が矢じりに似ていることや、「攻めても守っても良い」ということで勝ち草とも呼ばれ、戦国武将に好まれたモチーフです。

毛抜きが見つかった溝からは、日常生活に使われていた信楽窯^{しがらきかま}産の甕・壺^{すりばち}・播鉢^{けんよう}のほかに、茶道具である信楽窯^{みずさし}産の水指・花入や、瀬戸美濃窯^{せとみのかま}産の天目茶碗、中国の建窯^{けんよう}（福建省）で焼かれた天目茶碗、朝鮮半島産の茶碗なども一緒に見つかりました。そのためこの館の住人（城館の主）は、茶の湯をたしなみ、また、中国産の天目茶碗という高価な品を所有することができるだけの財力も備えていたといえます。

たがじんじゃおくしゅいん
名勝多賀神社奥書院庭園

犬上郡多賀町多賀

景色を修理する



多賀神社奥書院の北側に広がる奥書院庭園は、国の名勝に指定されている江戸時代初期に造られた池泉観賞式^{ちせんかんしょうしき}の庭園です。奥書院（県指定）の北側に池を掘り、池の水源でもある水路が園内を貫流^{かんりゅう}しています。

歴史的な庭園の多くは、その後の改修や石組の破損などの理由で当初の姿を変えているところもあります。滋賀県文化財保護協会では、こうした庭園の環境整備に必要な測量調査や発掘調査を行い、現在の状況を記録し、発掘調査の結果から当時の姿を検討し、復元・整備の基本資料を作るなど、名園を後世に守り伝えていく仕事をしています。



発掘調査後の状況

今回の調査では、庭園の北側に設けられた水路の対岸から石組の遺構が見つかりました。

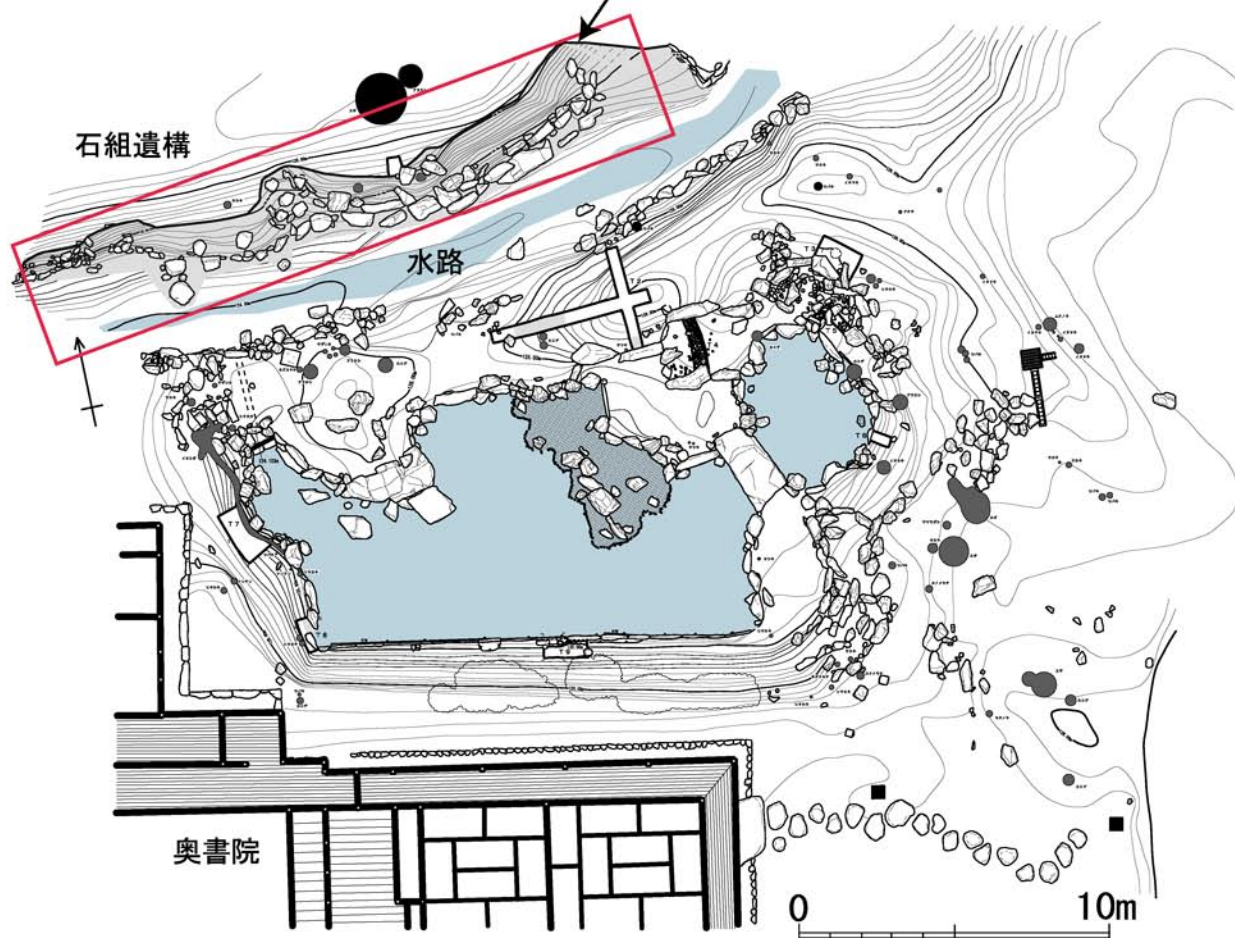
水路対岸の全面発掘調査を行ったところ、崩落した石垣跡や立石を伴う石組、^{かれたき}枯滝状の石組みなどを発見し、水路対岸にも庭園の景色が組まれていたことが明らかになりました。



水路対岸の様子（発掘調査前）



水路対岸の様子（発掘調査後）
埋没していた石垣が見つかりました。



多賀神社奥書院庭園平面図

ひだじょう 肥田城遺跡

彦根市肥田町

周濠から木製埴輪を発見



これまでの調査で肥田城遺跡からは、16世紀の肥田城攻めの際の堤跡や、奈良時代から鎌倉時代の集落跡を確認しています。

今回の調査では、幅2 m以上、深さ0.6mの6世紀前期の古墳の周濠の一部を発見しました。周濠の中から、土器や埴輪とともに木製埴輪などが見つかりました。調査を行った水田は「塚乞手」という小字名で知られていて、地名からも古墳が存在したことがうかがえます。



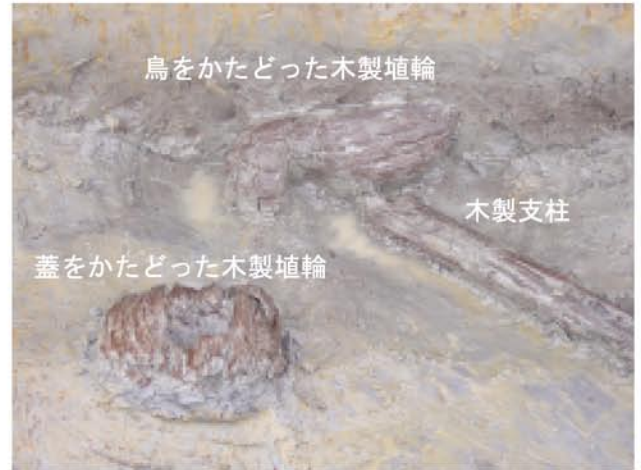
調査の様子



古墳周濠 墳丘はすっかり削り取られていました。



朝顔形埴輪出土状況

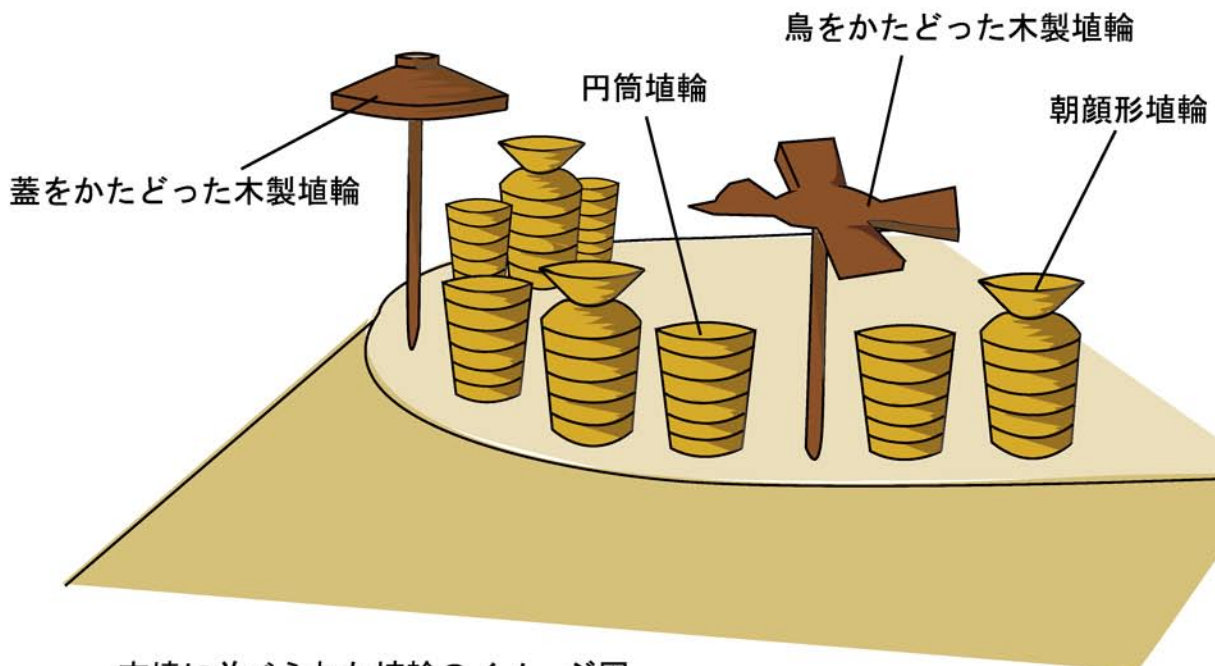


木製埴輪出土状況

見つけた埴輪は、^{えんとうはにわ}円筒埴輪や^{あさがおがたはにわ}朝顔形埴輪などのほかに、^{きぬがさ}鳥や蓋をかたどった木製の埴輪です。埴輪は、古墳と外の世界とを区別したり、葬られた首長の権威を示すために、古墳の墳丘の周囲を取り巻く^{はにわれつ}埴輪列として置かれていたものと考えられます。

蓋は高貴な人にさしかける^{かさ}笠のことで、葬られた人物が高い身分であったことをうかがわせます。鳥は死者の魂を運ぶ存在と考えられていたため、その姿をかたどった埴輪が古墳に並べられたものと考えられます。

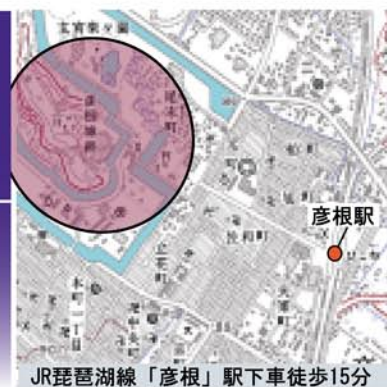
これまでは、埴輪は土で作られたものだけと思われていましたが、今回見つけたものと同じ木製埴輪は各地で出土し、同じような用途を持っていたことがわかってきました。



古墳に並べられた埴輪のイメージ図

ひこねじょう 特別史跡彦根城跡 彦根市金亀町

彦根藩重臣の邸宅跡を調査



てんぽう 天保7年（1836）に作成された『御城下惣絵図』^{ごじょうかそうえず}には、彦根城跡の中濠（堀）と内濠（堀）に挟まれた場所に重臣の屋敷の区画が描かれています。今回、戸塚邸宅にあたる県立彦根東高校のグラウンドの一角を調査しました。

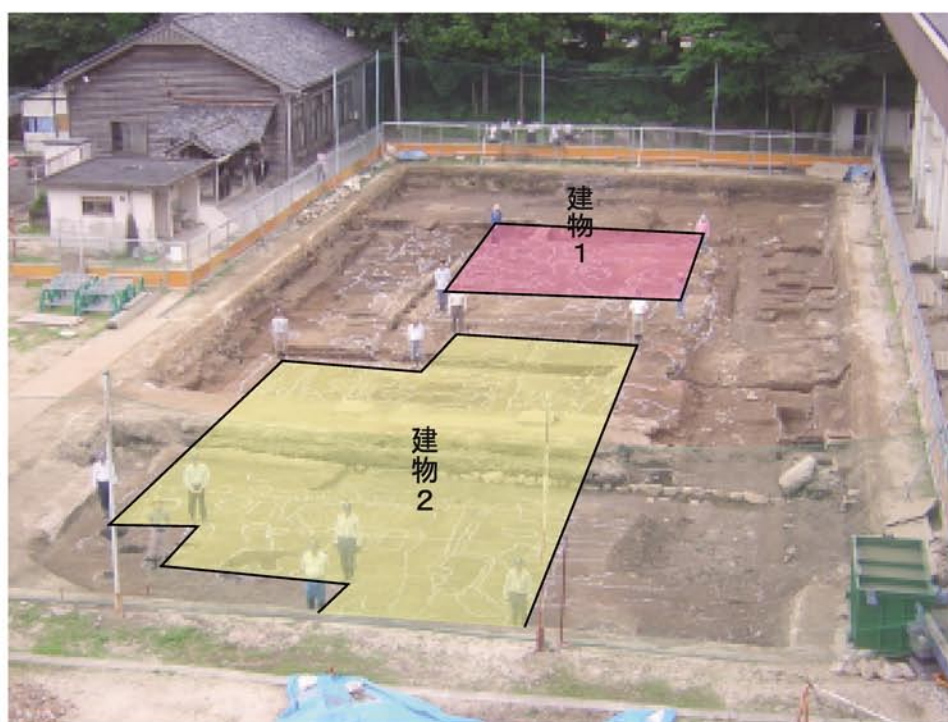
調査の結果、建物跡2棟と、それに伴う雨落ち溝や井戸、漆喰で作った枅、ゴミ捨て用の穴などが検出されました。

さらに、下層から江戸時代初期の礎石も見つかりました。これらの遺構が明確に残っていたことで、彦根東高校の地下には彦根藩300年を支えた重臣たちの屋敷が今でも良好な状態で残っていることが確認でき、地下保存されることになりました。



発掘調査地

戸塚邸宅の一部とみられる部分を発掘調査しました。



発掘で見つかった建物 2棟の建物跡と、雨落ち溝などが見つかりました。



発掘で見つかった建物1の雨落ち溝

軒先から落ちる雨の滴を受け止めて、軒下が見苦しくならないようにするための設備です。



重要文化財
彦根城 馬屋

雨落ち溝のイメージ写真

雨落ち溝は、軒先からの雨の滴を受けていた溝です。人頭大の石で溝の側壁を組み、溝の内側には砂利が敷かれていました。

この雨落ち溝の南側の「建物1」は礎石の上に柱を置いて建てられた建物です。礎石は全て抜き取られていましたが、礎石の下に置いて、礎石を安定させる根石が残っていました。この「建物1」の西側からは、「建物2」とその雨落ち溝も見つかりました。



湖東焼 せんちやわん 煎茶碗 (染付)



湖東焼 せんちやきゆうす 煎茶急須 (赤絵金彩)

調査では肥前（佐賀県）や美濃（岐阜県）で焼かれていた大量流通製品である陶磁器のほか、13代藩主井伊直弼が特に力を入れて作らせた湖東焼も出土しました。

湖東焼は、直弼の時代に諸大名への贈答用に焼かれた高級美術品ですが、今回出土した磁器は上級武士などに流通していたと考えられる良質な品物です。

ろくたんだ

六反田遺跡

彦根市宮田町

古代の物流ターミナルを発見



六反田遺跡は、縄文時代や古墳時代から平安時代までの遺物の散布地として知られていました。今回の調査で、白鳳時代（7世紀後半）の川跡（川跡1）と平安時代の川跡（川跡2）、さらに平安時代（9～10世紀）の13棟の掘立柱建物群が見つかり、木簡や墨書土器が出土しました。

川跡1は、入り江状に湾入した川の支流と思われます。湾入した部分に木杭を打ち込んで柴を横に渡し、前面は人頭大の石材で押さえ、背面には粘土を充填して、川岸を人工的に改良するなどの護岸工事が行われたことがうかがえます。

川跡2は、川幅6～8m、深さ1～1.4m（現況）の規模が確認できました。その中でも、川幅の広い部分（8m）の岸边は勾配が垂直に近いほどに急になっています。掘削されていることや、河岸の堆積物の断面から、本来の川を拡張したものと考えられます。



川跡1（白鳳時代）

木杭や石材など、護岸工事の跡が残っています。



川跡2（平安時代前期）

左（東）側の岸边の傾斜がほぼ垂直になっています。

これら2つの川跡は、ともに旧矢倉川から入江内湖を通じて琵琶湖とつながっていた可能性が高く、川岸には入江状に改良した、船着場がありました。



木簡（4点）は平安時代の川跡から出土しました。木簡は、文章を記した文書木簡（1号木簡）、人名と思われる文字を何度も書いて練習した習書木簡（2号木簡）、そして荷物に付けられた荷札木簡（3号木簡）の3種類に分類できます。

3号木簡は表裏に文字が書かれており、上部は欠損していますが、解読された文字から、黒米（くろごめ：精米していない米、玄米）に付けられた荷札であったことがわかりました。

4号木簡は内容を読み取ることはできませんが、1号木簡、3号木簡と同年代のものと考えられます。



出土した墨書土器

平安時代の川跡からは、複数の墨書土器が出土しました。土器には「郷長」「長」「大家」「寺」などの文字が書かれており、施設の性格や施設そのものを連想させます。

このような文字を伴う遺物が出土したことで、この遺跡が一般的な農村集落ではなく、六反田遺跡の近くを古代の東山道が通り、川跡と交差する地点には船が係留され、物資と人が集うターミナルがあったことがうかがえます。

しおづこう 塩津港遺跡

伊香郡西浅井町塩津浜

日本最古の「起請文」木簡



塩津港遺跡は、塩津浜集落の西側を流れる大川の河口にあります。塩津は平安時代の『延喜式』に記載されている大津とならぶ重要な港として栄えていました。ここから11世紀～12世紀の神社遺構が見つかりました。

遺構は社殿と堀、そしてその間の建物のない空間からなっています。社殿は同じ場所と同じ方角を向いて、同じ用途で何度も立て直された様子がうかがえます。堀はそれぞれ違う時代のものが3本検出されています。3本とも並行して掘られています。後の堀が機能している時には先の堀は埋まっており、社殿と同じく何度も作りなおされたことがわかりました。

この堀から大量の木簡が出土しました。木簡には神仏の前で宣誓する「起請文」が書かれ、長さ1.5～2.2mを測り、非常に大型です。「起請文」としては日本最古で、文書木簡としては日本最大のものです。



11世紀遺構面全景

写真の下半分に社殿があり、上半分には社殿域の南側を区画する堀が掘られています。

起請文の内容は、「預かった荷物をなくしません」など、荷物の運送に関するものが多く、運送業に携わる者が誓いをした場所ということで、この神社は琵琶湖の湖上交通・輸送と深く関わっていた様子がうかがえます。

また、大きさが非常に大きいのは、人目につくように掲示するためと考えられます。墨が消えて文字の跡だけが盛り上がっているものが多いことから、紫外線の多く当たる野外で、しかもあまり雨のあたらない所に、長期間にわたって掲示され、^{せいがんじょうじゅ}誓願成就後に一括して堀に廃棄されたと考えられます。

木簡と一緒に、^{はし}箸や^{しょうめい}松明（たいまつ）に使われたと考えられる松根の細材、炭化した米の塊も出土しており、大量に出土する土師器皿とあわせて、この場所で夜に明かりを灯して神に誓い、食事をする儀式を行っていたことがうかがえます。



木簡出土状況（11世紀）



保延三年七月二十九日（一一三七年）
ほうえん

平治元年（一一五九年）
へいじ

52号木簡

現存する最古の起請文木簡
(117cm×12.7cm×0.7cm)

10号木簡

日本最大の文書木簡
(220.5cm×13cm×1cm)

ゆのべ 湯ノ部遺跡

野洲市西河原

弥生時代中期の方形周溝墓が見つかり、さらに下層からは弥生時代前期の溝や土坑が見つかりました。遺構からは弥生土器が出土しています。



弥生時代中期の方形周溝墓

いど 井戸遺跡

湖南市針

縄文時代中期～室町時代までの土坑や落ち込み、掘立柱建物などを検出しました。

遺物は、縄文土器や9世紀中ごろに流通していた古銭、富寿神宝のほか、10世紀後半の緑釉陶器の素地が出土しました。



平安時代の掘立柱建物

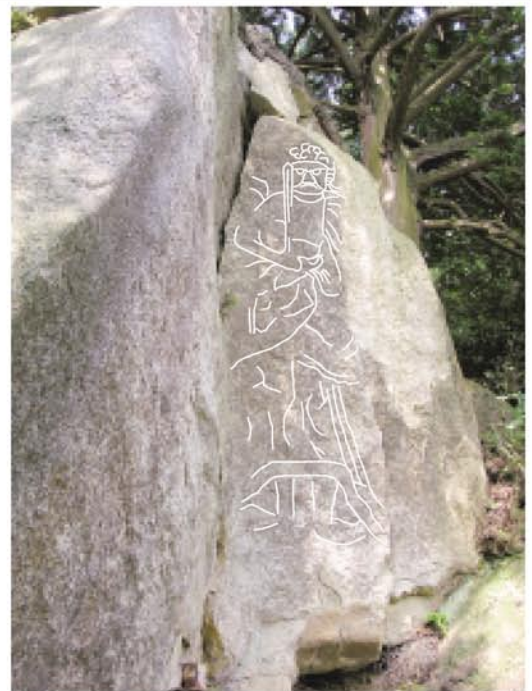
いわおやま 岩尾山遺跡

甲賀市甲南町杉谷

治山工事のため、ロープネットに覆われることになる崩壊寸前の磨崖仏の現況を記録するための測量調査と発掘調査を行いました。

巨大な岩など立体的な遺構の測量は難しかったのですが、最新の立体写真機器を用いて測量を行っています。

(岩に線刻された不動明王像をわかりやすく白線で示しました。)



磨崖仏

おの でら 小野寺遺跡

長 浜 市 醍 醐

山中の谷間から道路跡と造成された平坦地が約25面見つかりました。遺物の出土が非常に少なく、寺院跡と思われますが、いつ、何のために造られたかはまだわかっていません。



人工的な平坦面（破線で囲んだ部分）

かなかい 金貝遺跡

東 近 江 市 野 村 町

4,500年前の縄文土器、奈良時代（8世紀）の^{たてあなじゅうきょ}竪穴住居、奈良～平安時代（8～12世紀）の掘立柱建物・溝などが見つかりました。掘立柱建物の柱穴からは^{りよくゆうとうき}緑釉陶器・^{かいゆうとうき}灰釉陶器・^{こくしよく}黒色土器が出土しました。



奈良時代の掘立柱建物

まつばらないこ 松原内湖遺跡

彦 根 市 松 原 町

江戸時代中期以後に造成されたと考えられる5つの平坦面と、4本の道状の遺構を発見しました。^{みちじょういこう}道状遺構はもっとも長いもので38.7mの長さまで残っており、幅は0.7m前後ありました。

また、山裾の平坦面のうちの一つから、江戸時代の墓が4基発見されました。墓は、火葬した骨を収めた蓋付きの^{がしつ}瓦質の^{ひけしつぽ}火消壺で、2基一对で近接して2箇所に設けられていました。



江戸時代の墓（蔵骨器）

平成19年度 財団法人滋賀県文化財保護協会 事業概要報告

1 協会運営

- ◎役員会議等の開催
 - 決算監査 19年5月23日(水)
 - 第1回理事会・評議委員会 19年5月30日(水)
 - 第2回理事会・評議委員会 20年3月27日(木)
- ◎管理事務
協会事務局および滋賀県埋蔵文化財センターの運営と維持管理
- ◎指定管理
 - 滋賀県立安土城考古博物館 (指定管理期間 18年～22年、5年間)
 - 滋賀県立琵琶湖文化館 (指定管理期間 18年～19年、2年間)



成果展関連イベント(8月12日シンポジウム)

2 埋蔵文化財の調査・研究・保護に関する事業

- ◎埋蔵文化財調査などの受託
(明細別表)
- 52件
- 発掘・試掘調査
調査面積 70,353㎡
- 40件
- 整理調査
- 22件



整理作業



塩津港遺跡発掘調査作業

3 文化財保護のための普及啓発事業

1 文化財展の開催

- ◎平成18年度調査埋蔵文化財展「第21回レトロ・レトロの展覧会」
期 間 平成19年7月21日(土)～9月2日(日)
場 所 滋賀県埋蔵文化財センター
入館者数 3,577人

- ◎成果展(安土城考古博物館第32回企画展と共同開催)
(入館者数 10,782人)

「城と城下町ー彦根藩と膳所藩を中心にー」

期 間 19年7月14日(土)～9月9日(日)

○シンポジウム 8月12日(日) 参加者 152人

基調講演「天下統一と彦根藩・膳所築城」

京都大学教授 藤井 譲治 氏

事例報告「彦根城と城下町の調査」

彦根氏教育委員会 谷口 徹 氏

「膳所城下町の調査」

滋賀県文化財保護協会 中村 智孝



レトロ展

- ◎JR大津京(旧西大津)駅構内文化財展示

第1回「遺跡の標本」

19年5月18日(金)～9月7日(金)

第2回「近江の城を掘る 湖上の天守ー膳所城ー」

19年9月7日(金)～1月18日(金)

第3回「近江大津宮」

20年1月18日(金)～

- ◎調査成果報告関連遺跡展(地元教育委員会等と共催)

○弘川佃・宮下遺跡・酒波寺遺跡 高島市立図書館今津分館

19年9月11日(月)～9月17日(日) 見学者 2,000人

○植遺跡・植城遺跡・北脇遺跡 甲賀市立柏木公民館

19年11月3日(土)～11月11日(日) 見学者 589人

◎出土遺物速報展示（安土城考古博物館ロビー、琵琶湖文化館）

夏見城遺跡出土の戦国時代の毛抜き

平成 19 年 8 月 11 日（土）～ 8 月 17 日（金） 琵琶湖文化館

平成 19 年 8 月 19 日（日）～ 9 月 9 日（日） 安土城考古博物館

塩津港遺跡出土起請文木簡

平成 19 年 10 月 8 日（月）

安土城考古博物館



県立安土考古博物館ロビー展示

② 刊行物の編集・発行

◎「文化財教室シリーズ」 No.225 ～ 229

◎「滋賀文化財だより」 No.305 ～ 307

◎「遺跡散歩マップ」 No.18 大津市南部地域編

◎「紀要」 第 21 号

◎成果展シンポジウム記録集「近世の城と城下町ー膳所・彦根・江戸・金沢」

◎「近世の城と城下町」（サンライズ出版）

③ 発掘調査現地説明会などの開催

◎弘前遺跡	守山市赤野井	19 年 4 月 14 日（土）	15 人
◎野村北遺跡	東近江市野村町	19 年 4 月 22 日（日）	30 人
◎酒波寺遺跡	高島市今津町酒波	19 年 8 月 5 日（日）	40 人
◎特別史跡彦根城	彦根市金亀町	19 年 8 月 25 日（土）	200 人
◎塩津港遺跡	伊香郡西浅井町塩津浜	19 年 10 月 7 日（日）	250 人
◎明王院・地主神社遺跡	大津市葛川坊村町	19 年 10 月 14 日（日）	90 人
◎金貝遺跡	東近江市野村町	19 年 11 月 3 日（土）	20 人
◎極楽寺遺跡	高島市マキノ町沢	19 年 12 月 15 日（土）	70 人
◎六反田遺跡	彦根市宮田町	19 年 12 月 22 日（土）	60 人
◎六反田遺跡	彦根市宮田町	19 年 12 月 23 日（日）	80 人



塩津港遺跡現地説明会



発掘調査成果報告会
了安寺・井戸遺跡・夏見城遺跡

④ 発掘調査成果報告会および報告書刊行報告会

◎弘川佃遺跡・酒波寺遺跡	高島市立図書館今津分館	19 年 9 月 17 日（月）	24 人
◎入江内湖遺跡	米原市米原公民館	19 年 9 月 22 日（土）	45 人
◎百済寺南川遺跡・野村北遺跡	東近江市八日市文化芸術会館	19 年 10 月 27 日（土）	13 人
◎後山・畦倉遺跡	北比良会館（大津市）	19 年 11 月 4 日（土）	20 人
◎関津遺跡	大津市立田上公民館	19 年 11 月 11 日（土）	30 人
◎了安寺・井戸遺跡・夏見城遺跡	湖南市夏見会館	19 年 11 月 11 日（土）	70 人
◎極楽寺遺跡	高島市沢区草の根ハウス	19 年 12 月 15 日（土）	70 人

⑤ 整理調査報告会（調査整理課）

◎あの遺跡は今！Part 5 関津遺跡など	19 年 8 月 19 日（日）	247 人
◎あの遺跡は今！Part 6 関津遺跡など	20 年 2 月 24 日（日）	131 人

⑥ 連続講座の開催

◎「モノ知り学一遺跡調査員が語る近江の歴史ー」（受講人数延べ 25 人）

第 1 回 「西日本初の土偶形容器出土からみえるものー滋賀県出土縄文土偶の見方と特色ー」

20 年 1 月 20 日（日）

第 2 回 「弥生人と木の文化ー草津市柳遺跡の木器についてー」

20 年 2 月 17 日（日）

第 3 回 「土に埋もれた石仏ー近江における「中世の終わり」の一側面ー」

20 年 3 月 16 日（日）

⑦ その他

◎記者発表・資料提供 十里遺跡など 12 件

◎体験学習の受入れ等

発掘現場での体験学習 1 校 6 人

職場での体験・見学 4 校 156 人

◎講演会講師等

27 回 参加者延べ 2,727 人



記者発表（十里遺跡）

4 文化財施設の管理運営事業：滋賀県立安土城考古博物館・滋賀県立琵琶湖文化館の指定管理と滋賀県埋蔵文化財センターの管理運営事業

1 滋賀県立安土城考古博物館 19年度年間総入館者数 51,000人

◎特別展

○春季特別展「縄文から弥生へー農耕社会の形成と実年代ー」
期 間 19年 4月28日(土)～6月10日(日)
(入館者数 5,895人)

○秋季特別展「戦国・安土桃山の造像Ⅱ」
期 間 19年 10月13日(土)～11月18日(日)
(入館者数 4,181人)

◎企画展

○第34回企画展「城と城下町一彦根藩と膳所藩を中心にー」
期 間 19年 7月14日(土)～9月9日(日)
(入館者数 10,782人)

○第35回企画展「信長と安土城」
期 間 20年 1月19日(土)～3月30日(日)
(入館者数 8,656人)



第34回企画展
「城と城下町一彦根藩と膳所藩を中心にー」

2 滋賀県立琵琶湖文化館 19年度年間総入館者数 26,004人

◎特別展「女性と祈りー信仰のすがたー」

期 間 19年 10月6日(土)～11月18日(日)
(入館者数 2,310人)

◎小企画展

「地獄と極楽ー六道絵の世界ー」
19年 4月24日(火)～5月20日(日)
「肖像の世界」
19年 5月22日(火)～7月1日(日)
「滋賀県新指定文化財展」
19年 7月3日(火)～7月16日(月)
「桃山の美」
19年 9月4日(火)～10月2日(日)
「青の造形」
20年 2月19日(火)～3月23日(日)



収蔵品特別公開
第3期「仏教美術の精華」

◎収蔵品特別公開

第1期「花鳥風月」 20年 1月9日(水)～2月3日(日)
第2期「か・ざ・り KA・ZA・RI」
20年 2月5日(火)～3月2日(日)
第3期「仏教美術の精華」 20年 3月4日(火)～3月30日(日)

3 滋賀県埋蔵文化財センター 19年度年間総入館者数 7,456人

◎常設展示

上半期「生産遺跡から見た近江の歴史」 下半期「琵琶湖と近江の歴史」

◎刊行物

「滋賀埋文ニュース」(第325号～336号)
「埋もれた文化財の話 28」
「平成17年度滋賀県埋蔵文化財調査年報」

◎資料収集・保管

出土遺物等の受入れ	遺物 1,708箱	図面資料 139冊	写真資料 223冊
発掘調査報告書等の受入れ	発掘調査報告書類	2,115冊	一般図書 80冊

◎埋蔵文化財活用促進事業の実施

○ガイドブック作成と講座の開催

- i. 琵琶湖に関する文化財を紹介
ガイドブック「近江歴史探訪マップ9 近江湖物語1 水の浄土 琵琶湖」
- ii. 聖武天皇の東国行幸と紫香楽宮に関連する文化財を紹介
ガイドブック「近江歴史探訪マップ10 聖武天皇の夢・紫香楽
ー近江・甲賀の聖武天皇ゆかりの遺跡を歩くー」

講演会(協力)「ふるさとの歴史を学ぶ歴史講座『紫香楽宮関連遺跡群』」

19年 11月18日(日) 甲賀市信楽町黄瀬公民館

○滋賀県埋蔵文化財センター研究会の開催

- i. 第89回研究会『近江湖物語「水の浄土琵琶湖」』 19年 11月17日(土) ピアザ淡海 参加者 70人
- ii. 第90回研究会「平成19年度滋賀県発掘調査成果報告会
土の中から歴史が見える07～最新の発掘成果から～」
20年 3月8日(土) ピアザ淡海 参加者 300人

5 文化財保護資金の貸付事業

◎貸付実績 5件 35,022,000円

国・県または市町が指定した文化財、登録文化財などの保護・保存をはかるため、県・市町・協会・宗教法人・企業・個人などの出資金・寄付金をもとに無利子で貸付事業を行う。

平成19年度事業別調査一覧表

No.	遺 跡 名	所在地	調査	面積(m ²)	報告書	事 業 者	調査原因	主 な 内 容
1	国道松原内湖遺跡	彦根市	測量・発掘	2,650		国土交通省	国道建設	表土除去
2	特別史跡彦根城	彦根市	発掘	1,048		県教委総務課	学校改修	江戸時代の屋敷跡
3	県史跡水口城跡	甲賀市	試掘	12			学校改修	溝状遺構
4	上仰木遺跡	大津市	発掘	3,520			県道建設	平安時代の製鉄関連遺構
5	湯ノ部遺跡	野洲市	発掘	690		土交部道路課	県道建設	弥生時代の溝・方形周溝墓
6	極楽寺遺跡	高島市	試掘・発掘	2,807			県道建設	奈良～平安時代の倉庫群
7	小野寺遺跡	長浜市	試掘	300		県土木部砂防課	河川改修	人工的な平坦面を検出
8	岩尾山遺跡		発掘	3,450				
9	岩尾山遺跡	甲賀市	測量・発掘	110			治山工事	磨崖仏の測量、拝殿遺構
10	清滝寺・能仁寺遺跡	米原市	試掘	300			河川改修	溝状遺構
11	塩津港遺跡	西浅井町	発掘	2,900			河川改修	平安末期の宗教施設
12	金貝遺跡	東近江市	試掘・発掘	7,585		県土木部河港課	河川改修	古代～中世の集落跡
13	天神畑・上御殿遺跡	高島市	試掘	1,000			河川改修	古墳～鎌倉時代の遺構
14	松原内湖遺跡	彦根市	試掘・発掘	8,640		県環境部下水道課	建物建設	奈良～平安時代の集落跡・近世の平坦面
15	井戸遺跡	湖南市	発掘	9,727		県農水部耕地課	ほ場整備	平安時代の集落跡
16	関津遺跡	大津市	発掘	1,272			ほ場整備	古代の建物跡
17	酒波寺遺跡	高島市	発掘・整理	850			農道整備	中世の寺院に関する建物跡
18	夏見城遺跡	湖南市	発掘	1,125			環境保全	中世の城館に関する区画溝
19	野村遺跡	東近江市	試掘・発掘	2,942			ほ場整備	奈良～平安時代の集落跡
20	市場遺跡	高島市	試掘	810			ほ場整備	遺構・遺物は特になし
21	肥田城遺跡	彦根市	試掘・発掘	3,019			ほ場整備	古墳の周溝の一部
22	上出遺跡	甲賀市	試掘	180			建物建築	中世の溝状遺構
23	六反田遺跡	彦根市	試掘・発掘	6,922			ほ場整備	白鳳・平安時代の港湾施設
24	金貝遺跡	東近江市	試掘	2,790			ほ場整備	古代～中世の遺構
25	六反田遺跡2	彦根市	試掘	3,669			ほ場整備	古代～中世の遺構
26	入江内湖遺跡	米原市	試掘	186			ほ場整備	遺構・遺物は特になし
27	浄土屋敷遺跡	東近江市	試掘	915			ほ場整備	古代～中世の集落跡
28	針氏城遺跡	湖南市	試掘	794			ほ場整備	中世の溝状遺構
29	明王院・地主神社遺跡	大津市	測量・発掘	50		明王院	重文建物修理	平安～室町時代の前身基壇
30	多賀神社奥書院庭園	多賀町	発掘	90		多賀大社	名勝庭園整備	庭園整備に伴う調査
31	柳遺跡	草津市	整理		○		河川改修	弥生～江戸時代の集落跡
32	入江内湖遺跡	米原市	整理		○	国土交通省	国道バイパス建設	縄文～古墳時代の遺物包含層
33	堂山古墳群	栗東市	整理				国道建設	古墳時代の木簡直葬墓と溝状遺構
34	高野城遺跡	甲賀市	整理		○	西日本高速道路(株)	国道建設	戦国時代末期～近世の里山遺構
35	烏丸崎遺跡ほか		整理		○○	県教育委員会(旧水資源公団)	琵琶湖開発	弥生時代の玉造工房・方形周溝墓群など
36	雲仙寺遺跡	栗東市	整理				県道整備	弥生時代の方形周溝墓・集落跡
37	国道関津遺跡	大津市	整理		○	県土木部道路課	国道改築	旧石器時代の角錐状石器・平安～鎌倉時代集落
38	湯ノ部遺跡	野洲市	整理				県道建設	弥生時代の溝・方形周溝墓
39	長野遺跡	愛荘町	整理		○		県道改修	弥生時代の河川跡、古墳の周溝
40	赤野井浜遺跡	守山市	整理			県土木部河港課	河川改修	弥生時代前期～中期の集落跡
41	岩尾山遺跡	甲賀市	整理			県土木部砂防課	治山工事	磨崖仏の測量、拝殿遺構
42	松原内湖遺跡	彦根市	整理			県環境部下水道課	建物建設	奈良～平安時代の集落跡・近世の平坦面
43	関津遺跡	大津市	整理				ほ場整備	縄文～江戸時代の官衙・集落・道路跡
44	野村北遺跡ほか	東近江市	整理				ほ場整備	古代～中世の集落跡
45	安養寺・辻野遺跡	近江八幡市	整理		○		ほ場整備	古代～中世の溝・ピットなど
46	弘前遺跡・赤野井遺跡	守山市	整理		○	県農水部耕地課	水質保全	弥生～鎌倉時代の溝状遺構
47	肥田城遺跡	彦根市	整理				ほ場整備	奈良～鎌倉時代の集落跡・戦国時代の水攻堤跡
48	弘前遺跡	守山市	整理		○		水質保全	弥生～鎌倉時代の方形周溝墓・集落跡
49	酒波寺遺跡	高島市	整理		○		農道整備	中世の寺院に関する建物跡
50	北脇遺跡	甲賀市	整理		○	民間	建物建設	平安時代の官衙関連遺跡
51	西明寺庭園	甲良町	整理			西明寺	名勝庭園整備	埋もれた庭園池跡整備
52	史跡小谷城跡	湖北町	整理		○	湖北町	史跡整備	清水谷地区家臣団屋敷の調査
				70,353	13冊			





ホームページ・アドレス <http://www.shiga-bunkazai.jp/>
表紙: 塩津港遺跡と出土「起請文」木簡